

「西蔵国地誌略」

タイトル	「西蔵国地誌略」(明治 32 年 6 月)
著者名	能海 寛
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』
号	第 26 号
ページ	102-108
発行年	2021.3.15
E-mail	Sekihou@hazaway.com(能海寛研究会)

ISSN 1883-4183



中国僧姿の能海寛

能海 寛 略歴

能海寛 法名法流。石峰と号す。明治元年 5 月 18 日島根県浜田市金城町長田(当時は東谷村)浄蓮寺に生まれる。12 歳で得度し、慶応義塾と哲学館に学ぶ。恩師南條文雄師の意思を継ぎチベット探検の論文『世界に於ける佛教徒』を発表すると共に語学の研究と山岳登山による体力の練磨をなす。郷里にあつては地方史を編纂して和歌を詠み、益田沖の高島にて寺小屋を開設する。哲学者、探検家、宗教家として釈迦直伝の大蔵經の經典を求め英訳經典世に出す目的で当時鎖国中であつたチベットへ求道のため身を挺し仏教巡礼探検を實踐した功績は偉大で有言実行と用意周到さは後世に幾多の教訓を残す。その苦難の 34 年の生涯に「般若心經」西蔵文直訳(梵・藏・漢・英)など四巻が著書として永遠に伝う。

第 1 章、 総論

第 1 節 区域

- 東は北京西径 17 度半、北径 31 度半、頭蔵の滾卓克宗城の東北に於いて四川省巴塘の北方と境す。而して界碑は巴塘の西、南墩の東、寧静山にあり。
- 西は西径 44 度 20 分、北緯 31 度、底蔵の底穆岡城の西に於いて露領土耳其斯丹の拉達克と阿尔泰山を以て境す。
- 南は西径 29 度、北径 26 度、後蔵、喀達城の東南に於いて印度哲孟雄（又作西金）（シキム）、と雪山（ヒマラヤ山）を以て境す。
- 北は西径 28 度、北緯 35 度半、前蔵瑪里察咭泊（海子）の北に於いて、新疆喀喇沙原の大戈壁と境す。（又西 37 度、北 35 度 40 分、後蔵、巴哈池（海子）の北に於いては新疆、葉爾羌（天山南路）の和蘭城の西南地と崑崙山を以て境す。

第 2 節 大別 附地（二所）

全国を大別して四蔵 69 城とす。即ち、頭蔵（8 城）、前蔵 30、後蔵 18 城、底蔵 10 城、とす。又古来、全国を三蔵と称す。康（頭蔵）、衛（前蔵）、蔵（後蔵及び阿里）なり。近来、前蔵、後蔵、阿里の三蔵とも分てる。

第 3 節 面積 凡そ 65 万 1 千 500 方哩。

第 4 節 人口 凡そ 300 万人なりとす。

第 5 節 歳入出 不明。

人口は、僧侶の 6 倍なりという。僧 4 0 幾万人なり。 (6 月 16 日製図)

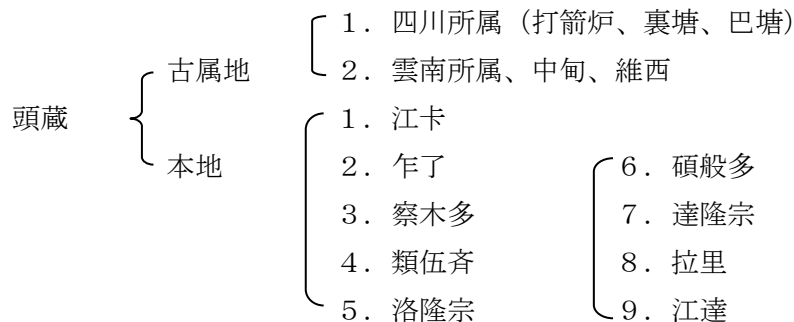
舜徒三苗於三危、三危者、猶中国之三省。 (6 月 17 日)

1. 喀木（又康という）、今の打箭炉、裏塘、巴塘、察木多。
2. 危（又衛という）、即布達拉の地、亦拉撒と名け、今の前蔵を称す。
3. 蔵、即札什倫布の地、本拉蔵汗の所治、今の後蔵是なり。

打箭炉西南拉里城の東南を為喀木地、達頼刺麻所属為衛地。班禅額尔とも尼所属為蔵地合三地為三危。

第 2 章 頭蔵地誌

第 1 節 頭蔵の地誌を 2 部に分つ。第 1 に頭蔵本地、第 2 に頭蔵古属地。



第 3 章 頭蔵古属地

第 1 節 古属地は、古来西藏所属の地よりしも現今支那に属し支那の治下にありと雖も「地理、人種、言語、衣食住、宗教、風俗、全く西藏本地と異なることなり。而し支那本国とは全く其各状を

異にするを以て今西藏の地あらざるも西藏地誌の附録として爰に編入す」

第2節 古属地を四川所属、雲南所属の2部とす。

第3節 四川所属、第一、打箭炉庁（打箭炉は、四川省成都府の西1,020清里に在り、大度江の支流なる瀘課を60里の上流、南北両流の合点にあり）

打箭炉庁所割（打箭炉、雅州省道台の管轄）

東、化林坪、飛越嶺関に至る220里。

西、雅龍江、中渡（又河口という）に至る280里。

天主全堂（佛国）、瀘定橋、冷磧、磨西面、以上3所（天全、清溪、榮經求）

○東門内茶関。○電報局。○福音堂、英人。○天主全堂、北門外。○軍糧府、シエイタイ。○総督府、提督。○都円府、副提督。○明正土司48土司管轄。○観音閣、東門内。○観音閣、上橋。○示昌宮、上橋。○ドーチャゴエンパ、ラマ寺。○清真寺、上橋、回々教。○牧善堂、南門内天主教仏国女学校。○天主堂、南門外仏国人（以上川東）、東門。○北門。○南門、チュヨエンパ。○ドチエチャーパー（大教堂）南門外2里、ラマ寺僧300、7月初10、11。瀘定橋より。○法名寺、ヒヤモセ[°]パーゴエン、ラマ寺80僧、南門外2里。○会館、陝西上々橋西、ガンチュエンゴエンパー上橋の西。6月28日、29日、ラマ僧160余。○館、芝居をなす最美。○川主廟、会館の隣にあり僧1。○城隍廟、僧1、北門内。○武侯祠、北門内。○瀘源番院、北門内。○サーチャーゴエンパ、僧30、イーチューゴコンパ、僧30。○ラマ寺外2所。

打箭爐（ターチェンル）

炉城に水夾流、三山緊抱、晨夕多風、終年積雪、盛夏、猶服、重裘、番夷、雜虎、詭形異状鳩面黎里鳥語鯨輪被髮徒跣身衣紅褐梵僧喇嘛往来不絶於道実西南是鎖蔵衛之吭吭也。設分防同知一員阜和協副將同駐與。自瀘定橋至炉大約高倫千丈崖、氣候驟政人思挾纒。明正宣慰使司駐城中。所割長官及土1,100戸、49員、東至瀘定橋、120里。冷辺土司界、西中渡汎280里。裡塘土司界。南至樂壤600里。冕寧県界。北至章谷屯450里。小金川界。

打箭炉、古族牛国也。俗傳武郷侯南征遣郭達將軍、安炉造箭附会無稽遇愚按唐朱之世吐蕃入寇斯為要道或嘗造箭於此於丞相南征由嵩益程途各別非所經行也。

明正土司旧属49土司。

西炉、君峯嶺岷、高噴雲雷中敞一潤廣潤平地番蛮聚族而居其石罍而層高者為□楼土砌而背平者為□房人居其上牛豚在其下地不産五穀惟青稞与牛羊而已者諸葛武侯、征蛮曾干此地造箭遣一軍人監之厥後成神立廟享祀此打箭炉之所由各也。四方商壳輻輳為川茶庚貨交易之所設有欽差監督稅務而明正宣慰使宴世守茲土焉。

康熙38年提督、唐希順拋化林守備王允吉等原報一案興師克打箭炉定界糧台自打箭炉至蔵有□。打箭炉、裏塘、巴塘、帰内地、外則、察木多（中略）、拉里、前蔵。

川陝滇、入蔵之路三惟、雲南、中甸之路峻巖重阻故軍行皆由、四川、青海2路、而青海路、而出河原之西未入蔵前、先經、蒙古、草地1,500里。又不打箭炉内、皆腹地外環土司故駐蔵大臣往返皆以四川為正馭而互市与貢道亦皆在打箭炉云。

打箭炉、昔為南詔地、玄成都西南1,020里。東西徑640里。南北徑830里。東至炉定橋、交冷辺土司界120里。西至瞻対抵熱泥塘界520里。南至雅隆江中渡交裡塘界280里。北、至小金川界550里。東南至冕寧県500里。西南至喇滾瀾滄江界480里。旧属青海部落。明永樂5年土目阿旺甲木參向化帰誠授為長河西魚通寧遠軍民宣慰使司頌結印信号紙国朝因之其宣撫司管轄十三鍋莊審民約束新附土司及土

1,100 戸。56 員。上納貢馬徵解雜糧其明正宣慰使司管轄安撫司六土 1,000 戸。一土 100 戸。48 名。
藏地樂界四川屬之巴塘、裡塘、打箭炉、古名康又名喀木地。
西、至裡塘 650 里、(8 の 33)、(2) 大路 685 里(2 の 19)、至巴塘 1,170 里、(3) 1,230 里(2 の 19
小路、至察木多由章谷、林葱 1,885 里(西輶考に 975 里)。
大路、至成都(由榮徑、清溪県 1,020 里)、
大路、至察木多 2,435 里(2 の 20)、
 至喇薩 3,480 里(5 の 9)、
大路、至前藏 5,155 里(3 の 13 組加)、
大路、至拉里 4,135 里(3 の 17 組加)、
大路、至後藏 6,055 里(3 の 25 組加)
 至前藏(鳥期藏)進藏仁糧 4,475 里、
 至察木多 1,850 里、

産物、輸出品、麝香、茸、皮貨、鹿角、酥油(内地来出)、竜牛、馬、羊、麦、枇杷。

 輸入品は、茶を主とし、米等。

内貿易場たり。

現今、明正土司所割 38 土司、土司の下を 2,300 戸より 1 千戸、土百府という蛮人長たり支那服を着す。

河口(ホーカラ)又称中渡汎(チョントスイン)蛮名ニャチユカ

雅竜江の東岸にあり、伏竜石川来り会す。汎部庁、部長買氏あり。対岸を大立了覇という。この地 50 余戸。舗子 1 戸もなし。渡江船三双。外に牛皮船あり。入藏のもの過江の路表を要す。尔らずんば渡ることを得ず。地形、江の兩岸せまり平地なし。炉定橋の如く青稞、青菜等あり。人心睦多く支那人。

西悪落(シーフロ)

人家 3、40 戸。塊烏拉の地なり。青稞あり。

古属地、第一四川省属之二、裏塘(リタン)

裏塘、氣候、高寒、雪山、圜口然地勢開洋縦横数 10 里、溪水、平流若令漢人開墾可得数万頃良田也。惜平蛮人習於畜牧之逸不諳耕作之勞兼之喇嘛 3,600 余名。有口茶銅鍋四具可容数 100 石。旁有。吳王殿寺後土山左右環抱溪水濼口前面雪山如銀屏張列正中一尖峯尤為秀拔寺基之下及附近諸山悉産黄金喇嘛禁人口掘。

裏塘、宣撫使司称大營官副土司称小營官所割長官司 4、日瓦述毛了瓦述崇喜瓦述曲登瓦述濶口土 100 戸。2 日瓦述毛茂了瓦述麻里、其地東至河口 320 里、明正土司界西至二郎灣河 240 里。巴塘土司界南至拉空嶺甕水関 580 里。雲南、中甸、庁界、北至楚口河 440 里。膽対土司界。

裏塘、正副官官新授為按撫司之職。其地、東至明正。西至巴塘与大小瓦述接壤疆域寛平、蛮人、順化。康熙 58 年、永寧協副将兵鐘琪斬達哇藍古巴布木咱等九人都統法臘於 5 月 18 日、令永寧副将兵鍾現領官兵 1,000 進取、巴塘。令成都県口諭楊世祿先行招撫。5 月 26 日、巴塘營官結果翁布 2 人。随楊世祿齊土地、戸口、冊迎副将兵鐘琪於奔卡木地方。巴塘、裡塘、始定(中略)、応正 3 年、寧靜山上為界並建分界碑嶺東之巴塘、裡塘、属四川。

裡塘 打箭炉の西 650 里。至巴塘 520 里。東至雅隆江交明正司界、西至諸哩布察木多交瓦述土司界。南至睡杓竹交雲南、中甸界、北至雄熱泥交膽対界。応正 7 年頒結正副官官印信安奔授為宣撫司康確嘉

木磋為副土官瓦述崇喜毛羊毛茂未長坦曲登授土百戸。世代承襲右結印信号紙其戸口 6,529 戸。刺麻 3,849 名。歳輸貢賦其管轄地方。大小 36 処。

四川属之巴塘、裡塘、打箭炉、古名康又名喀木地。

第 7 世、達頼刺麻、裏塘(地方)に生まれる。裏塘産金好。

軍領府、糧台熊氏。裏塘総督部庁。裏塘専汎部庁。正営報、副営報、裏塘寺、ラマ 3,000 余。底口 100 余戸。小間物舗子 5、60 戸。物産、牛馬、羊、金、人心甚猛惡。裏塘、平原、周回、数 100 里。東西 2、30 里。南北 4、50 清里。去裏塘 15 里。熱水塘、温泉及刺麻寺有り。

刺麻了(ラマヤ)

刺麻了、河辺にあり、拉尔河来り。会す。河北より南に流れ兩岸、幅 4、5 丁、耕作。青稞、青菜あり。架橋 2 所、50 余戸。下橋、下辺に於て 10 戸。街を為す。当地、小鳥拉を喫へ、又土司府報あり。

鐘城(シャンゼン)

蛮人の白にして城近方、人家 1,000 有余。刺麻了より南方 3 日里程にして進蔵の通路にあらずる

巴塘(パタン)

巴塘正副営官新授為按撫司之職其地東接裏塘、西聯江卡与占对比隣。世相仇殺土廣俗淳審人順化。地暖無積雪。節氣与。内地無殊。

土産、則葡萄、胡桃、栗、穀、蔬菜、牛、羊、雞鴨、狛口獠口葉。豹元狐獺兒之属。沿東有温泉澄口一池清潔可浴。

街即小溪司粮務者公餘口池引之構草亭於其上觸景舒嘯亦足以極一方之勝口。

西行則金沙江、由西北而来水色渾黄溶々而下兩岸皆山。崖水無泛溢屈曲至雲南。

巴塘、漢兵 300 戸。設糧務一員都司一員。天氣和暖。土壤、膏腴、青稞、苡麦、歳有二秋、蔬菜之類口栽有丁林寺喇嘛 3,000 余衆。或云丁林為古丁零羌之遺種或之也。巴塘即勾狼王唐口之故地皆無可考。

巴塘宣撫使司及副土司所轄六玉宗俄玻密德隆諸架口俱在西南二面另有所属 7 土司日口口桑隆、日郭布及上下蘇阿上下臨卡石在西北一帶。附近金沙江兩岸其地東至二郎灣。裏塘界。西至寧静山江卡界。南至耿中橋、中甸界。北至桑昂野番及德格土司界廣 700 余里、哀千余里。

康熙 58 年、永寧協副將岳鐘琪斬達哇藍古巴布木咱等九人都統法臘於 5 月 18 日、令永寧副將兵鐘琪領官兵 1 千進取巴塘令成都県教諭楊世祿先行招喚。5 月 26 日、巴塘營官結果翁布 2 人。隋楊世祿齊土地戸口冊迎投副將兵鐘琪於奔卡木地方。巴塘、裏塘、始定(中略)、応正 3 年、松藩鎮總兵官周瑛勘定疆址始定於南墩寧静山嶺上為界並建分界碑嶺東之巴塘、裡塘属、四川嶺西属、西藏、其中口察卡、中甸属、雲南三処疆界始分。

巴塘、西為蔵界旧属喇蔵罕。応正 4 年、会勘界址分歸滇鼎建立界碑。又喜松工山与達拉山両界山頂亦立界石山以内均為巴塘所属山以外為西藏所属。応正 7 年将巴塘土官札什彭楚克授為宣撫司大頭人。阿林沁授為副土官頒給印信号紙有土目 25 名。大小頭人 426 名。百姓 2 万 8,150 戸。刺麻 9,480 名。每年上納折銀 3,200 両。零所轄安撫可司 11 名。長官司 7 名。蔵地之東界、四川属之巴塘、裡塘、打箭炉。古名康、又名喀木地。

康熙 59 年、真達頼刺麻入蔵。軍容甚盛。南路將軍撫裏巴塘進口。

佛国天主会堂①巴塘、②ヤーヘーコン(巴塘より兩天路、巴塘管下)、③エンチン(巴塘より五点路、巴塘管、塩井の 3 所にあり。一昨年、三会堂新造、費 3 万両。)

福音堂の在炉英人夏 6 月、巴塘に至り公儀を聞く。

軍糧府、糧台武氏、都口府、巴塘、專汛庁、正營官、副營官。

定林寺、1,800 人。雅巴廟、ラマ寺数 10 人。関帝廟、城口廟、清真寺、天主会堂、佛人 1 名。人家、高屋 100 余戸。戸口 300。小間物舗子 2、3 戸。玄楚河、大流、北より南に向て流る。奔察木河、大流合す。地形三角。三山囲口し、平地凡そ 1 里四方。耕作、青稞、蕎麦、豆、南瓜、白瓜、黄瓜、口口、桃、梨、大根、葱、葺、河魚等、人心淳睡。至雲南大路、巴塘 40、牛古渡 50、竹巴籠過江 75、工日 80 里。家泥定 40、ゾンガン一、利咱拉(ここより分路、至塩井)、四日、(大路)、阿敦子、又六站玉維西、小維西あり、天主会堂あり。北路は烏拉あり、小路あり。

中甸(チョンティエン)

此地漢番雜抛人烟稠密民物風景大抵与巴裏二塘相類也。近方平坦有、海子寬廣数 10 里。水沢腹堅光明如鏡、自巴塘至中甸行 18 日。約計 1,000 余里。

中甸、撫夷同知所轄、幅員 300 余里。附郭日、中甸境。西、至耿中橋。巴塘界、日泥溪境至 80 里。南至阿喜汎麗江界。日江辺境。東至永順土州界。日小中甸境。北至瓮水関裏塘界。日格咱境。所属土守備二員土千総五員。土把総 16 員。不世襲。夷民、言語、与蔵地不同。所奉紅黄二教城外蟻尾寺喇嘛 2,000 余名。

自中甸進蔵有兩路。察木多一路。道寬而遠多夾巴(訳言賊也)、高山大川為滇蜀会兵孔道、由ト自立阿敦子擦瓦崩達活隆宗一路高峻嶺鳥道羊腸幾非人迹所到然頗近。

大中甸審兵估黨出寨第一部口有營官番一名。喋巴有喇嘛一人喇嘛營官 2 人、与喋巴拜見。其下喇嘛数百。皆偏袒右軟臂紅口口為衣念徑則率牛羊進口人至鳴角代鼓以迎口口果、葡萄、珊瑚果々属為供、米飯、加飴鋸、席地而口、小九高可尺許座前各置其一仏像、莊宏与中国略、相口最重、歡喜佛裸体交媾、礼拝者、皆進荅(訳言手口)以下見上汎此為贄如中国之手本名帖也。喋巴之下有木瓜神翁頭人等名色居民 200 余戸。皆板屋。是日將公屋營官喇嘛、皆遠接俯伏道傍口哈荅進酥油茶前引屋由營官三留家。住時積雪封山往来、断絶雇覓騾馬 160 頭、天 40 名、馬每頭 40 両。到蔵夫每名 24 両。中甸アリ大路。馬牛死皆棄。於水俗有_二四葬_一云_レは蔵東稍南界雲南属之中甸維西二庁昔属蔵地。

応正 3 年、松潘鎮總兵官周瑛勘定疆址始定於南墩寧靜山嶺上為界並建分界碑。嶺西属、西藏、其中口察卡、中甸属雲南三処疆界始分中甸、自巴塘、至中甸行 18 日、約計 1,000 余里。中甸撫夷同知所轄、幅員 300 余里。夷民言語与蔵地不同所奉紅黄二教城外有大寺、刺麻 2,000 余里。

至麗江六站約計 450 里。夷民凡九種日下略。

維西庁(ウエーシーティン)

蔵東稍南界雲南属之中甸、維西二庁。昔属蔵地。由巴塘、西行至竹巴籠、過河九程至阿敦子、又十程至維西庁、皆金沙江の外。

薄宗(察木多属城南方の境にあり)、又東繞龍川江上游過怒江經絡隆至嘉裕橋再東繞道王卡之西循瀾滄江西岸又東南過江直抵雲南麗江府属之維西庁。蓋蔵南沿辺一帯之要隘如此。(応正 3 年定疆之時与中甸同属雲南)

佛国天主会堂①阿敦子②維西の「ツーカー」に在りという。

江卡(チャンカ)

江卡半隅平坦為蔵炉大道係、巴塘、乍了、之中途亦達拉宗希桑昂邦拉籠春朋官角等処之捷径也向隸青海応正元年分隸西藏後以窮番偷却分駐守備一員把総二員外委一員設兵巡查防守焉。其疆域東至邦木寧靜山界 190 里。西至阿足山界 310 里。有漢人寺在南墩每年 7 月、巴察二地、容民皆雲集貿易如內地廟

会(以下龍可見)(行 50 里、有大雪山)

江卡官係鳥斯乍所轄也。圖域編小番蠻悍野以剽竊為事与口番合謀截劫名日夾巴其性殊不易馴。

義師江卡詩。不憎山逼面端苦雪口眸望日殊為遠殷心似解愁僧房停戍卒。皇帑負口牛飯罷攀鞍急搖鞭去未休。

江卡所轄(七塘)、①湍多塘、即南敦。②谷黍塘、一作古樹。③普納塘、以上兵 10 名、土兵 2 名。江卡、兵 16 名、土兵 4 名。

力黍塘、兵 10 名、土兵 2 名、一作黎對。阿布拉塘、石板塘、各兵 4 名。

寧靜山、在江卡東北山頂平坦 40 余里。一中道界碑山為內地屬巴塘山以西為外地屬西藏。

喜松山、在江卡東勢甚高峻上下給 4 0 余里。亦巴塘、西藏交界一作喜松工山。

漫山、在江卡東山路雲霧四垂間有瘴癘途次山崎口難行時慮候蹉跌。

大雪山

小雪山、在江卡、西 150 里。高下迂折約 60 里。

淶河、在江卡、西 40 里。

守備署、江卡、把總汛、一在、江卡、一在万板溝、外委汛、在力黍。

漢人寺、在南敦每年 7 月、巴察余二地、宿民皆雲集。貿易路、內地に飯会。

阿足塘東至、江卡正北名桑口、巴番部其人凶根好却奪行旅俗名モ夾霸去。

乍了東南界外皆唐古持地屬江卡管。

乍了(チヤヤ)

乍了、察木多東百里、其地三山環偪二水交騰窮僻荒涼其俗樂却鬪婚姻多不田礼。乍了在江卡西南即会典凶註之礼雅廟也。昔為闡教正副胡土克凶掌管(胡土克凶唐古特語不迷性之謂又胡克凶、国克凶)

康熙 58 年大兵定落之後頒給胡土克凶印信係闡溝黃教那門之印清字蒙古字唐古等字三樣篆文正胡土克凶住坐乍了寺院福胡土克凶住坐卡撒頂寺院有守備一員把總二員外委二員人口駐塘汛其疆域東至阿足界 170 里西至八貢塘昇 340 里。南至擦哇口北界官角。

乍了係正副官管轄審蠻悍野惟事剽竊較江卡尤甚且路多支溝易于乍匿過者宜倍加慎焉。

乍了地圖(原書ヲ見ヨ)

右凶雙線圈地即乍了總轄。雙線內單線圈乃現在二胡凶四倉儲巴之地單線圈外則大胡凶一倉儲巴及小頭人地也。下略。乍了(一城十三塘)。乍了土城、周圍約百余丈。新橋、山河、寺院、物產、(原書ニ讓ル)。

察木多(チャムトウ又作昌都)

九城七塘、39 嶺、二江三河、二署、一汛、22 寺、25 番地、物產(原書ヲ見ヨ)

察木多又名昌都即頭汛。

察木多為三藏之頭卡国王号呼凶兔、衣服類喇嘛而類髮曾番人所居背倚南山啣房深邃洞宇紆迴下臨土埠番民環集於其上三面河壩中薩起而頂平幅員約計數里。石橋肅寺高可凌雪彩能輝日夜靜鐘鳴雉唱犬喧闐以一都会也。於坡下建營壘列而肆為西蜀南滇大兵駐防之所東望則江流如帶湍急而環抱南望則山袖如峻幽峻而列峙如以羣峰羅列若遠若近殆居然西域形勝非荒殘零落者所可埒也。雲南進口者路至此会合由此而西出郭門沼江潞青山綠水秀異非常察木多則昌都有土城居民二百余戶。

王我師察木多詩。靈山接引向東來關地。重門一洞開二水雙橋凶裏。晝五花兩陣望中臺內天回首口窮者西藏登堂豈易回到此忖從何處想慈航有渡莫疑精。

察木多一作叉木在乍了西北即古康地古称前藏一名喀木(以下原書ヲ見ヨ)

自打箭炉由霍尔德華草地至察木多 1,885 里。藏誌作 39 站共計 1,775 里。此路番民多住黑帳房以牧畜為生微有烟瘴。

自察木多由類伍齊草地進藏炉程（至里竹工卡合進藏路）共計 1,880 里。藏誌作 29 站共計 1,910 里。喀木在衛藏之東。至京 9,000 余里。

察木多 形勢甚雄昂楮河在其右源出中壩。

因通雲南 亦名雲河雜楮河在其左源出九茹。

因通四川 亦名川河。

古代	三藏	康 打箭炉、裏塘、巴塘、中甸、維西、察木多 衛 拉薩 藏 札什倫布、阿里	又称	前藏、又頭藏 中藏 後藏
	又称			
	三危			
近世	三藏	前藏 察木多、拉薩 後藏 札什倫布 底藏 阿里	又称	康、衛 藏 阿里
	三藏			
	三藏			
能海	西藏	頭藏 康、附古代所屬地（打箭炉、裏塘、巴塘。中甸、維西） 前藏 衛 後藏 藏 底藏 阿里		
	西藏			
	西藏			
	西藏			



【解説】

この「西藏国地誌略」は、能海寛が重慶に滞在中に、これから向かおうとしている西藏探検に明治 32 年 6 月 15 日から記録した、『第六号』に掲載されているものである。能海は西藏国の頭、前、後、低藏と 4 つの区分で記述している。使用している文献は、『西輶日記』、『皇清地理図』、『進藏紀程』、『藏行紀程』である。

頭藏の康は、古代の所屬地、四川省打箭炉、裏塘、巴塘。中甸、維西。前藏の衛は、察木多。拉薩。後藏の藏は、札什倫布。低藏は阿里としている。

頭藏地図も併せて作成している。7 月 8 日、打箭炉を出発。8 月 2 日には、裏塘にて「入藏途次見聞雜記」を記録しているので、これらを併せて見ることで能海の事前学習と体験記録が比較できます。